



CEO Remark

オリンパス株式会社 | 社長兼CEO シュテファン・カウフマン | 2024年5月10日

(スライド1)

- CEOのStefan Kaufmannです。
- オリンパス株式会社「2024年3月期 決算説明会」にご参加いただき、誠に有難うございます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいませようお願い致します。
- 本資料は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

“

2024年3月期はさまざまな課題に直面しましたが、当社には変化に強い組織と人材、そして強固なビジネスモデル、顧客との安定した信頼関係があります

”




OUR PURPOSE
私たちの存在意義

Making people's lives healthier, safer and more fulfilling
世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現

OUR CORE VALUES

 <p>PATIENT FOCUS 患者さん第一</p> <p>私たちは、いかなる時も患者さんを最優先に考えて行動します</p>	 <p>INTEGRITY 誠実</p> <p>私たちは、正しい行動を取ります</p>	 <p>INNOVATION イノベーション</p> <p>私たちは、物事をより良くするために、新しい方法を追求します</p>	 <p>IMPACT 実行実現</p> <p>私たちは、結果に対する責任を持ち、やり遂げます</p>	 <p>EMPATHY 共感</p> <p>私たちは、お互いを思いやり、協力し合います</p>
---	--	--	---	--

基本的な指針

<p>患者さんの安全と持続可能性</p> 	<p>成長のためのイノベーション</p> 	<p>生産性の向上</p> 
--	--	---

戦略的な価値の源泉

<p>事業拡大とグローバル展開</p> 	<p>戦略的M&A</p> 	<p>ケア・パスウェイの強化</p> 	<p>インテリジェント内視鏡医療エコシステム</p> 
---	---	--	--

(スライド3)

- 2024年3月期はさまざまな課題に直面しましたが、当社には変化に強い組織と人材、そして強固なビジネスモデル、顧客との安定した信頼関係があります。この大きな可能性を有する確固たるビジネスモデルに加え、困難を乗り越える確信を高めており、2025年3月期は力強い回復に自信を持っています。
- 「Our Purpose 私たちの存在意義」と新たな「Our Core Values 私たちのコアバリュー」、そして基本的な指針の「患者さんの安全と持続可能性」、「成長のためのイノベーション」、「生産性の向上」に加え、4つの価値の源泉は将来の持続的な成長のための基盤を築き、方向性を明確にするものです。

「Elevate」は順調に進捗

主な長期目標

「Elevate」は以下の4つの目標達成に重点を置いた複数年にわたる総合的な品質変革プログラム

01. 患者さんの安全をより重視し、品質重視の企業文化を強化

02. 再現性の高い持続可能なプロセスとコンプライアンスの定着

03. 規制当局との建設的な関係構築

04. 競争優位性を高めるための品質強化

“ 私たちは常に、患者さんの安全に対する揺るぎないコミットメントを示し、品質第一の姿勢を貫きます ”

FY2024における取り組み

- 根本原因の分析
是正処置及び予防処置（CAPA）を最大限効果的に実施するために重要な根本原因の分析に関する能力を向上させるため、複数の施策を実施
- コンプレイント対応
コンプレイント対応の改善を図り、より一貫した医療機器報告（MDR）や患者さんの安全に関する報告への対応を実現
- 法規制遵守
コンピテンシーとガバナンスを含め、法規制遵守機能を強化

（スライド4）

- 経営戦略でもご紹介した通り、最優先事項である「患者さんの安全と持続可能性」に関連して、当社は2024年3月期から2026年3月期までの3年間、QARA（品質保証・法規制対応）システムやプロセス、ケイパビリティ（能力）を強化するために数々の取り組みを実施しています。
- これまでのところ、私たちは大きく前進しています。
- 具体的な例をいくつか挙げたいと思います。まず、2024年3月期には、是正処置及び予防処置（CAPA）を最大限効果的に実施するために重要な根本原因の分析に関する能力を向上させるため、いくつかの施策を実施しました。
- また、コンプレイント対応の改善を図った結果、より一貫した医療機器報告（MDR）を行えるようになり、より迅速に患者さんの安全に関する報告に対応することが可能となりました。
- さらに、法規制遵守機能の強化に向けた取り組みは大きく進捗しています。
- 総合的な品質変革プログラム「Elevate」により、オリンパスの潜在能力を最大限に引き出すとともに、将来のイノベーションに向けた強固な基盤を構築し、持続的な成長の実現につなげていきます。

FY2025における強固なパイプラインとビジネスモデル

事業拡大と
グローバル展開

ケア・パスウェイ
の強化

インテリジェント
内視鏡医療
エコシステム

戦略的M&A

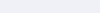
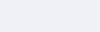
消化器科

- 消化器内視鏡システム
EVIS X1
米国での販売拡大
- 内視鏡用超音波観測装置
EU-ME3
- 超音波画像診断装置
Aplio i800 EUS¹ **NEW**
- 大腸内視鏡先端アタッチメント
ENDOCUFF VISION¹
- パウダー状止血剤
EndoClot¹
- ERCP² 製品群
- ESD³・EMR⁴



泌尿器科

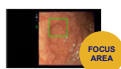
- 前立腺肥大症の低侵襲治療
デバイス iTind¹
- ツリウムファイバーレーザー装置
SOLTIVE SuperPulsed Laser
System¹
- シングルユース尿管鏡 **NEW**
RenaFlex¹
- 高周波焼灼電源装置 ESG-410¹ **NEW**
- 4Kカメラヘッド¹ **NEW**
- ビデオプロセッサ¹ **NEW**



呼吸器科

- EVIS X1気管支鏡
- 内視鏡用超音波観測装置
EU-ME3
- EBUS-TBNA⁵ スコープ、超音
波プローブ、吸引生検針
- スパイレーションバルブシステム¹

- インテリジェント内視鏡医療エコシステム^{1,6}を
下期に欧州で初めて導入



パイプラインを継続的に強化

¹ 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております ² Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography：内視鏡的逆行性胆道膵管造影術 ³ Endoscopic Submucosal Dissection：内視鏡的粘膜下層剥離術 ⁴ Endoscopic Mucosal Resection：内視鏡的粘膜切除術 ⁵ Endobronchial ultrasound-guided transbronchial fine needle aspiration（EBUS-TBNA：超音波気管支鏡ガイド下針生検） ⁶ 開示上、インテリジェント内視鏡医療エコシステムの業績は外科内視鏡に分類されます

(スライド5)

- 当社は将来の成長のための足掛かりとして、経営戦略でお示した4つの価値の源泉を踏まえ、注力領域において成長ドライバーとなる強固なパイプラインを揃えています。
- このパイプラインとビジネスモデルにより、2025年3月期は全体的に力強く回復し、より安定した事業運営を行うことができると見込んでいます。

FY2025展望:価値の源泉に基づく力強い回復

事業拡大と グローバル展開



ケア・パスウェイ の強化



インテリジェント 内視鏡医療 エコシステム



- ① 北米における消化器科領域の成長に期待
- ② EVIS X1に対するポジティブなフィードバック
- ③ 新興国市場における成長機会

- ④ 当社初のシングルユース尿管鏡が米国FDAの認可を取得

- ⑤ ロードショーが成功、FY2025下期に欧州で初めて発売予定

戦略的M&A



(スライド6)

- 私たちは、4つの価値の源泉すべてにおいて機会があると認識しています。
- 米国においては、主力製品のEVIS X1を発売後、需要が非常に高まっていることに加え、消化器科領域全体でも著しい成長を遂げています。
- いくつかの新興国市場では成長機会があり、将来的に高い需要が見込まれます。
- また、当社のパイプラインは、関連するケア・パスウェイの強化につながっていることが特徴です。例えば、直近、米国で当社初のシングルユース尿管鏡「RenaFlex」が認可されたことを大変誇りに思います。
- さらに、2025年3月期の下期にはインテリジェント内視鏡医療エコシステムを欧州で発売する予定です。
- それでは、これらの価値の源泉を詳しく説明したいと思います。

1 北米における消化器科領域の成長に期待



¹ 為替影響調整後の成長率 ² 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております ³ Floer M, Biecker E, Fitzlaff R, et al. Higher Adenoma Detection Rates with Endocuff-Assisted Colonoscopy — A Randomized Controlled Multicenter Trial. PLoS ONE. 2014;9(12):e114267

(スライド7)

- 消化器内視鏡領域は、2023年10月に北米でEVIS X1を販売開始後、非常に好調に推移し、北米における消化器内視鏡の成長率は前期比で為替影響調整後+20%となりました。直近の受注状況も非常に良好で、2025年3月期も高い成長を見込んでいます。なお、北米市場は当社の消化器内視鏡領域の売上高のうち、全体の約35%を占めています。
- また、消化器科処置具も好調です。当社の消化器科処置具領域の売上高のうち、北米市場での売上は全体の約25%を占める中、この2年間は二桁成長を継続しています。大腸がんの検出と大腸がんの治療、肝胆膵疾患の3つの臨床領域全てで成長が顕著です。大腸内視鏡先端アタッチメント「ENDOCUFF VISION」とパウダー状止血剤「EndoClot」は、差別化された当社独自の製品であり、特に米国での成長を大きく牽引しています。ESDナイフや、バルーンカテーテル「Multi-3V Plus」などのERCP製品群は二桁成長を維持しており、今後もこれらの領域に注力し、グローバルに拡大している機会を一層捉えてまいります。

2 EVIS X1に対するポジティブなフィードバック

以下のように、医師からEVIS X1に対するポジティブなフィードバックを獲得。消化器疾患のスクリーニングから治療に貢献



Sam Serouya 先生
NYU Langone Hospital Brooklyn

EVIS X1は、消化器内科医に次世代の内視鏡的治療を提供してくれる素晴らしい製品です。私たちが不可能だと考えていた可視化が可能になり、患者さんに安全で効率的かつ高度な治療を行うことをサポートしてくれます”



Anand Gupte先生
UF Health Shands Hospital

TXIを使うと、構造と色調の最適化により、粘膜の形状がより詳細に観察でき、異常組織の発見とその後の切除が容易になります。扁平なポリープやその他の微細な病変の識別もしやすいため、私は大腸の観察時にTXIを好んで使用しています。また、大きなポリープを切除した後や、複数の箇所から血液が噴出するEMR¹などの治療中に、出血点を特定するにはRDIが非常に役立つと思います”



TXI
構造色彩強調機能

粘膜表面の「構造」「色調」「明るさ」の3つの要素を最適化することで、病変部などの観察性能向上に貢献²

内視鏡学術誌 “Gastroenterology³”に掲載された研究⁴結果

- TXIは、大腸腺腫検出率と腺腫検出数を改善
- すべての患者さんに対する大腸内視鏡検査と観察の質を向上させるために、TXIの普及が効果的

RDI
赤色光観察

緑・アンバー・赤の3色の特定の波長の光を照射することで、出血点や深部血管などの視認性向上が支援され、止血処置を迅速かつ容易にサポート²

Serouya先生およびGupte先生は、オリンパス株式会社、子会社、関連会社のコンサルタントです。上記はTXI、RDIが使用される場面の一例となります。各機能が病理検査に置き換わることを意図したものではありません。TXIとRDIは、オリンパス株式会社、オリンパスアメリカ、関連会社の商標です。

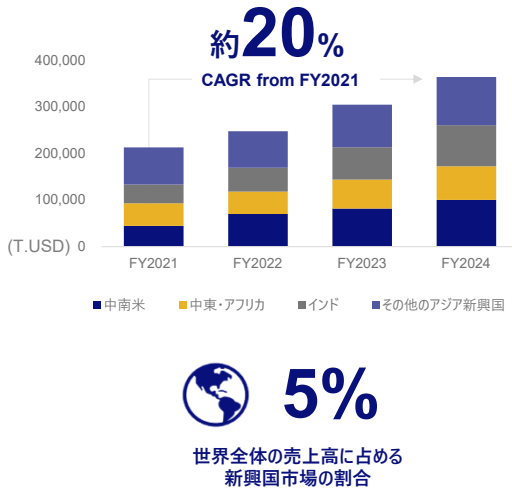
¹ Endoscopic Mucosal Resection: 内視鏡的粘膜切除術 ² Data on file (DC00489968)
³ Young E, Rajagopalan A, Tee D, Sathananthan D, Hoile S, Singh R; "Texture and Colour Enhancement Imaging Improves Colonic Adenoma Detection: A Multicentre Randomised Controlled Trial," Gastroenterology. 2023;S0016-5085(23)05135-1. doi:10.1053/j.gastro.2023.10.008 *オリンパス支援

(スライド8)

- 世界のどこでお客様にお会いしても、EVIS X1に対するフィードバックは非常にポジティブです。
- 米国の臨床医であるSerouya先生からは、「EVIS X1によって、私たちが不可能だと考えていた可視化が可能になり、患者さんに安全で効率的かつ高度な治療を行うことをサポートしてくれます」とのお声を頂いております。
- EVIS X1は、当社の最も先進的な内視鏡システムであり、消化器疾患のスクリーニング、分類、診断、治療の方法に革新をもたらす、高い操作性を兼ね備えた複数の優れた技術を導入しています。
- TXIとRDIを含むイメージングの進歩は、内視鏡診断と治療の質を向上させます。
- 2024年2月に内視鏡学術誌 “Gastroenterology”に掲載された最近の研究では、TXIの臨床的価値が実証されました。この研究では、「TXIは大腸内視鏡検査1回あたりの大腸腺腫検出率と腺腫検出数の両方を改善する。これは大腸内視鏡検査中にTXIを使用した最初のランダムな比較試験であり、すべての患者さんに対する大腸内視鏡検査と観察の質を向上させるために、TXIの普及が効果的であると示すものである。」と結論づけられました。
- 当社は、今後もEVIS X1によって医療水準の向上に貢献してまいります。

3 新興国市場における成長機会

医療分野における新興国市場の売上成長推移



経済成長の著しい新興国において、臨床医の教育プログラムやトレーニングへの投資を継続

ケニアでのトレーニング例

- ✓ 消化器疾患診療の人材育成支援（内視鏡領域）事業を開始¹
内視鏡医が不足するケニアでの内視鏡医療普及を目指した活動



インドでのトレーニング例

- ✓ 消化器内視鏡の出張検査プログラムを確立
病院は出張内視鏡検査ができる車（内視鏡検査装置を載せた車）を設置
- ✓ 外科医に消化器内視鏡トレーニングを提供
インドの外科学会と共同で消化器内視鏡トレーニング活動を実施



中南米でのトレーニング例

- ✓ 医療従事者への研修・教育、専門医との連携を強化

¹ 本事業は、厚生労働省より委託され、国立研究開発法人国立国際医療研究センターが主体となって実施する「令和5年度医療技術等国際展開推進事業」にオリンパスが応募し、採択されたものです

(スライド9)

- もう一つの成長ドライバーであり、グローバル展開の機会でもあるのが新興国市場です。
- 新興国では、人口の急増や経済成長に伴う所得の増加によるライフスタイルの変化、医療インフラの拡充により医療機器の需要が拡大しています。
- また、今後がんの罹患率が増えることが予測されており、消化器系がんの早期発見・治療に貢献する消化器内視鏡のニーズも高まっています。
- 一方で、新興国では専門性の高い内視鏡医の不足が課題です。そこで、当社としてはアフリカ、インド、中南米などの新興地域における内視鏡医の育成活動への投資を強化していきます。
- 現在の当社の医療分野全体の売上高に占める新興国市場の割合はまだ大きくないものの、ここ数年の年平均成長率（CAGR）は20%と非常に高く、今後も高い成長が期待できます。

4 当社初のシングルユース尿管鏡¹が米国FDA 510(k)の認可を取得

結石治療における患者さんのニーズ

- ✓ **12億人以上**
全世界で腎臓結石に罹患している患者さんの数²
- ✓ **10人に1人以上**
生涯で腎臓結石になる人の割合²

- ✓ **再発率30～50%**
3～5年以内に結石を再発する割合³
- ✓ **治療費**
治療費が高額^{4,5}



シングルユース尿管鏡¹を含む幅広い結石治療のソリューションを展開することで、オリンパスはあらゆる患者さん、手技、医療現場に包括的なポートフォリオを提供することが可能



¹ 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております ² Epidemiology of stone disease across the world – World J Urol. 2017 Sep;35(9):1301-1320.
³ Recurrent Nephrolithiasis in Adults: A Comparative Effectiveness Review of Preventive Medical Strategies – Agency for Healthcare Research and Quality (www.effectivehealthcare.ahrq.gov), published online June 15, 2011.
⁴ David B Bayne, Thomas L Chi; Urol Clin North Am. Assessing Cost-Effectiveness of New Technologies in Stone Management 2019 May; 46(2): 303-313. Epub. 2019 Mar 4. ⁵ Robert M Geraghty, Paul Cook, Valerie Walker, Bhaskar K Somani; Evaluation of the economic burden of kidney stone disease in the UK: a retrospective cohort study with a mean follow-up of 19 years. BJU Int 2020 Apr;125(4):586-594. Epub. 2020 Jan 24.

(スライド10)

- これまで「事業拡大とグローバル展開」の機会をご紹介してきましたが、「ケア・パスウェイの強化」の取り組みも進展しています。
- 当社は、内視鏡の領域におけるリーディングカンパニーとして、あらゆる患者さん、手技、医療現場に最良の適切な内視鏡を提供することを目指しています。
- そのため、当社初のシングルユース尿管鏡「RenaFlex」が510(k)の認可を取得したことは、当社にとって重要な戦略的マイルストーンです。
- 腎臓結石の罹患率の増加に伴い、内視鏡による結石治療の需要は高まっており、RenaFlexは当社の革新的なポートフォリオを補完する製品となります。例えば、リユース尿管鏡を使用できないような不測の事態が発生した場合、医療機関はワークフローを最適化することができ、手術の延期や遅れを避けることができます。
- RenaFlexは、当社の強みである人間工学に基づいた設計、イメージング技術を備えており、2025年3月期に米国およびアジア・オセアニアで発売を予定しています。

5 インテリジェント内視鏡医療エコシステムの導入

エコシステムにおけるビジョン

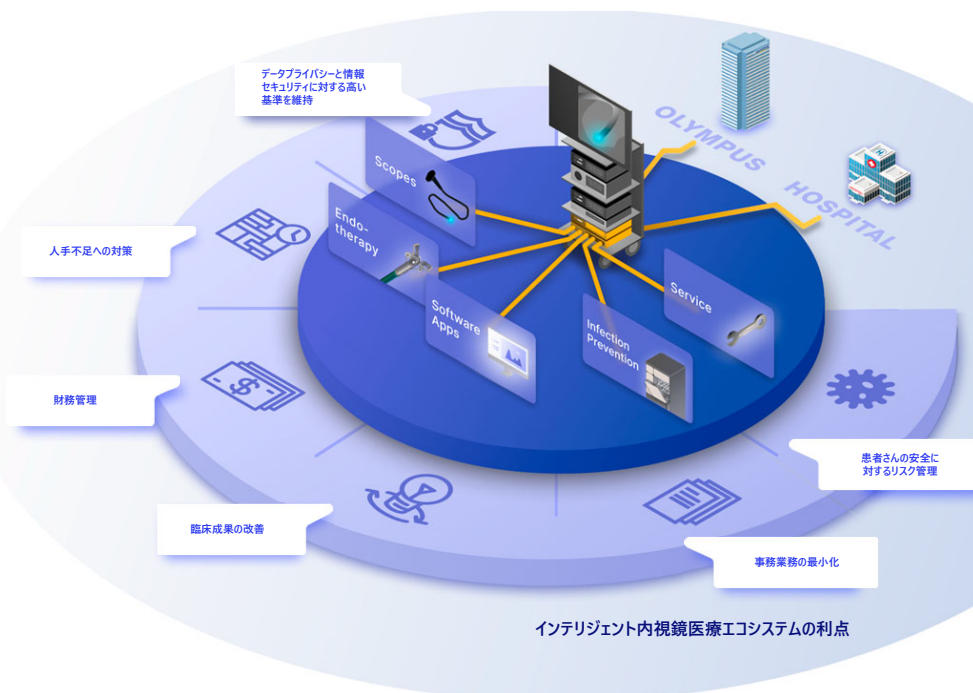
データとAIの活用により、臨床成果（アウトカム）と効率性を向上する

100人以上の医療従事者へのロードショー¹

主なフィードバック

- ビジョンおよび全体的な方向性への支持を得た
- どのようなバリュードライバー（価値を高める要素）を優先すべきか**貴重な知見**を得ることができた

¹ 2月から4月にかけて、スペインとドイツで、関心のある見込み顧客や共同開発者を対象に実施。今後もロードショーを継続します



(スライド11)

- 成長のための重要な価値の源泉のひとつである、AIを活用したインテリジェント内視鏡医療エコシステムを実現できることを大変嬉しく思っています。医療従事者の皆さまからはフィードバックをいただき、アンメットニーズの多くに対応できると考えています。
- 私たちが構築するエコシステムは、ソフトウェア製品にとどまらず、内視鏡、感染対策ソリューション、サービス、複数の病院システムとの統合も含まれます。今後、データとAIの力を活用して、臨床成果（アウトカム）と効率性を改善することを目指してまいります。

5 2024年末までに欧州で10カ所のリファレンスセンターを設置予定



Page 12 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

(スライド12)

- 当社のエコシステムを導入するお客さまは、臨床成果（アウトカム）を改善するために開発された複数のAIアルゴリズムや、ワークフローを改善するソリューション、臨床成果のインサイトを得られるソリューション、内視鏡資産を管理するソリューションを利用することができます。
- このような総合的なソリューションの共同開発を欧州の5つの病院と進めており、2024年末までにさらに10カ所のリファレンスセンターを開設する予定です。

“

2025年3月期は売上、利益ともに力強い回復を見込んでいます

”




OUR PURPOSE
私たちの存在意義

Making people's lives healthier, safer and more fulfilling
世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現

OUR CORE VALUES

 PATIENT FOCUS 患者さん第一 私たちは、いかなる時も患者さんを最優先に考えて行動します	 INTEGRITY 誠実 私たちは、正しい行動を取ります	 INNOVATION イノベーション 私たちは、物事をより良くするために、新しい方法を追求します	 IMPACT 実行実現 私たちは、結果に対する責任を持ち、やり遂げます	 EMPATHY 共感 私たちは、お互いを思いやり、協力し合います
--	---	---	--	---

基本的な指針

患者さんの安全と持続可能性 	成長のためのイノベーション 	生産性の向上 
---	---	--

戦略的な価値の源泉

事業拡大とグローバル展開 	戦略的M&A 	ケア・パスウェイの強化 	インテリジェント内視鏡医療エコシステム 
--	--	---	---

(スライド13)

- 最後に、2025年3月期は売上、利益ともに力強い回復を見込んでいます。もちろん、為替の影響もありますが、そういった追い風がなかったとしても、2023年5月に発表した約5%の売上高CAGRと20%前後の営業利益率の目標に向けて大きく前進します。
- それでは続いて、4月より当社に加わったCFOの泉 竜也よりご説明させていただきます。



2024年3月期 連結決算概況 2025年3月期 通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 泉 竜也 | 2024年5月10日

(スライド14)

- この4月にCFOに就任しました泉でございます。
- 財務分野及びグローバルビジネスで培った豊富な経験を活かし、社外ステークホルダーの皆様と積極的に対話をさせていただくことで、オリンパスの更なる企業価値向上に貢献していきたいと考えております。
- どうぞよろしくお願いいたします。
- 私から2024年3月期の連結決算概況および2025年3月期の通期業績見通しについて、ご説明申し上げます。

ハイライト

2024年3月期 通期実績

✓ 中国の売上減少や能登半島地震の影響などの逆風下において、為替影響調整後でも増収を確保。複数の一時費用などにより、営業減益

- 売上高： 為替影響調整後でも増収を確保。円ベースで医療分野は4Q及び累計において過去最高の売上高
- 営業利益： 複数の一時費用などにより営業減益
- 調整後営業利益： 総合的な品質変革プログラム「Elevate」、生産性向上を目的とした事業運営基盤の整備・強化などの持続的成長に向けた費用により、減益
- 当期利益¹： 科学事業（エビデント）の譲渡に伴う譲渡益を計上し、過去最高²の2,426億円、EPSは200円

2025年3月期 通期業績見通し

✓ 成長軌道に回帰し、売上高は円ベースで9%成長、為替影響調整後で5%成長。増収および一時費用の減少により、大幅な営業増益となる見通し。調整後営業利益率は19.4%と、経営戦略の財務ガイダンスである20%に近い水準を見込む

- 売上高： 1兆210億円と9%成長。為替影響調整後で5%増を見込む
- 営業利益： 1,770億円と大幅増を見込む。為替影響調整後でも大幅増益
- 調整後営業利益： 1,985億円と31%成長。為替影響調整後で22%増を見込む
調整後営業利益率は19.4%となる見通し
- 当期利益¹： エビデントの譲渡益が減少し、1,210億円、EPSは106円となる見通し
- 株主還元： 年間配当は2円増の20円を予定。2期連続で1,000億円規模の自己株式の取得を決定

¹ 親会社の所有者に帰属する当期利益

² 2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS。2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

(スライド15)

- 2024年3月期 第4四半期および通期決算における主なポイントです。
- 2024年3月期は、中国の売上減少、能登半島地震の影響や一部製品の出荷停止などの逆風に見舞われましたが、為替影響調整後のベースでも前期比増収となる売上高を確保することができました。
- また、円ベースでは医療分野は第4四半期及び累計において過去最高の売上高となりました。
- 営業利益および調整後営業利益は、複数の一時費用などにより営業減益となりました。
- 継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は、科学事業（エビデント）の譲渡益を当期第1四半期に計上し、過去最高の2,426億円、EPSは200円となりました。
- 続いて2025年3月期の通期業績見通しです。
- 2024年3月期は複数の一時費用などにより営業減益となりましたが、2025年3月期は成長軌道に回帰し、売上高は1兆210億円、前期比9%、為替影響調整後で5%の成長となる見通しです。
- 営業利益は1,770億円と、増収および一時費用の減少に加え、為替の追い風もあり、大幅な営業増益を見込んでいます。また同様に、為替影響調整後でも大幅増益となる見通しです。
- 調整後営業利益は1,985億円、前期比31%増、為替影響調整後で22%増を見込んでいます。調整後営業利益率は19.4%と経営戦略の財務ガイダンスである20%に近い水準となる見通しです。
- 当期利益は、前期発生したエビデントの譲渡益が減少することで1,210億円、EPSは106円となる見通しです。
- 2025年3月期末の配当は、安定的かつ継続的に増配していくという方針の下、業績予想も踏まえ、前期比2円増となる20円に増配予定です。
- なお、本日、適時開示でお知らせの通り1,000億円の自己株式取得を決定しました。2期連続での1,000億円規模の自己株式取得となります。



(スライド16)

- それでは、2024年3月期の連結業績および事業概況について、もう少し詳しくご説明申し上げます。

2024年3月期 通期実績 連結業績概況

- 1 売上高：為替影響調整後でも増収を確保。円ベースでは医療分野は4Q及び累計において過去最高の売上高
- 2 営業利益：複数の一時費用などにより営業減益
- 3 調整後営業利益：持続的成長に向けて、総合的な品質変革プログラム「Elevate」、生産性向上を目的とした事業運営基盤の整備・強化などの費用により、減益
- 4 当期利益¹：科学事業（エビデント）の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の2,426億円、EPSは200円（前期は113円）

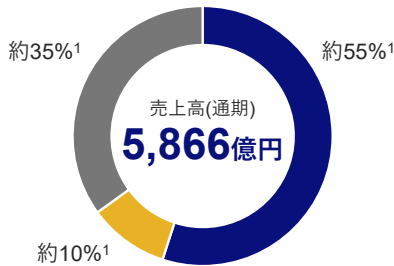
	通期実績（4-3月）				第4四半期実績（1-3月）			
	FY2023	FY2024	前期比	為替影響調整後	FY2023	FY2024	前期比	為替影響調整後
（単位：億円）								
売上高	8,819	9,362	+6%	0%	2,404	2,605	+8%	▲1%
売上総利益 （売上総利益率）	5,968 (67.7%)	6,251 (66.8%)	+5% (▲0.9%)	▲2%	1,631 (67.9%)	1,737 (66.7%)	+6% (▲1.2%)	▲4%
販売費および一般管理費 （販売費および一般管理費率）	4,205 (47.7%)	4,732 (50.5%)	+13% (+2.9%)	+7%	1,145 (47.6%)	1,323 (50.8%)	+16% (+3.2%)	+7%
その他の収益および費用など	103	▲1,083	-	-	▲46	▲368	-	-
営業利益 （営業利益率）	1,866 (21.2%)	436 (4.7%)	▲77% (▲16.5%)	▲83%	440 (18.3%)	46 (1.8%)	▲90% (▲16.6%)	▲102%
調整後営業利益 （調整後営業利益率）	1,768 (20.0%)	1,515 (16.2%)	▲14% (▲3.9%)	▲24%	487 (20.2%)	414 (15.9%)	▲15% (▲4.4%)	▲30%
税引前利益 （税引前利益率）	1,823 (20.7%)	359 (3.8%)	▲80% (▲16.8%)		429 (17.9%)	28 (1.1%)	▲93%	
継続事業からの当期利益 （継続事業からの当期利益率）	1,380 (15.7%)	270 (2.9%)	▲80% (▲12.8%)	FY2024 配当 年間配当18円	324 (13.5%)	195 (7.5%)	▲40%	
非継続事業からの当期利益	56	2,160	+3,741%		29	▲121	-	
当期利益	1,436	2,429	+69%		352	74	▲79%	
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,434	2,426	+69%		352	74	▲79%	

¹ 親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
² 「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
³ 2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

（スライド17）

- まず、連結業績概況です。
- 連結売上高は9,362億円です。為替影響調整後でも増収を確保しました。北米、アジア・オセアニアが好調に推移し、特に北米では、2023年10月より販売を開始した「EVIS X1」の売上増加が見られています。一方、反腐敗運動による入札活動の遅れが様々なセグメントで見られた中国では減収となりました。
- 売上総利益は6,251億円、売上総利益率は0.9ポイントの悪化です。内視鏡事業で高速気腹装置の市場是正処置に係る費用約52億円や、小腸内視鏡システムの自主回収に伴う費用約42億円を引当計上したことなどにより、悪化しました。
- 販管費は4,732億円、販管費比率は2.9ポイントの悪化です。主な要因は、持続的成長に向けた、総合的な品質変革プログラム「Elevate」、生産性向上を目的とした事業運営基盤の整備・強化などの費用によるものです。
- 営業利益は436億円、前期比で77%減少しました。営業利益率は16.5ポイント悪化し、4.7%でした。
- その他の収益および費用などは▲1,083億円です。Veran Medical Technologies社の電磁ナビゲーションシステムなどの製造・販売終了に伴う損失約519億円や、総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る一時的な費用約230億円、整形外科事業に関連する損失約86億円、内視鏡事業における開発資産及び仕掛中の研究開発の減損損失約106億円などを計上しました。なお、総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る費用は、販管費で約85億円、その他費用で約230億円、合計で約315億円発生しました。
- 調整後営業利益は1,515億円、前期比で14%減少しました。調整後営業利益率は3.9ポイント悪化し、16.2%でした。
- 継続事業の当期利益は270億円となりました。2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を当期第1四半期に計上し、継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は過去最高の2,426億円、EPSは200円となりました。
- 2024年3月期末の配当につきましては、公表済みの見通し通り前期比2円増配の18円とさせていただきます。

2024年3月期 通期実績 内視鏡事業



(単位: 億円)	FY2023		FY2024	
	4Q	通期	4Q	通期
売上高	1,528	5,518	1,673	5,866
営業利益	421	1,528	211	1,047
その他の収益および費用	▲15	▲38	▲165	▲284
調整後営業利益	436	1,566	376	1,331
営業利益率 (為替影響調整後)	27.5%	27.7%	12.6% (9.9%)	17.8% (16.4%)
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	28.5%	28.4%	22.5% (20.3%)	22.7% (21.4%)

FY2024 vs FY2023 (4-3月) 売上高成長率

為替影響調整後

円ベース為替込み

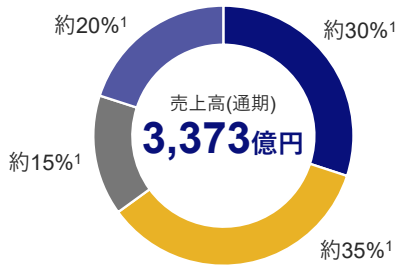
■ 消化器内視鏡	▲3%	<ul style="list-style-type: none"> 消化器内視鏡システム「EVIS X1」を発売した北米が好調に推移。北米は為替影響調整後で、通期は+4%、「EVIS X1」を発売後の4Qは大幅に伸長し、+20%成長。一方、反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響を受けた中国で売上が減少したことに加え、能登半島地震の影響を受け減収。「EVIS X1」シリーズの売上割合は、消化器内視鏡の中で通期で約20%、4Qで約30%に上昇 	2%
■ 外科内視鏡	▲3%	<ul style="list-style-type: none"> 外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」を発売した欧州やアジア・オセアニアの売上が増加した一方、一部製品の出荷停止による影響を受けた北米と中国で減収 	2%
■ 医療サービス	8%	<ul style="list-style-type: none"> 保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上加えて、新規契約の増加もあり、全地域で前期比プラス成長 	16%
合計	1%		6%

¹ 四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

(スライド18)

- 次に各セグメントの概況について、ご説明します。
- まず内視鏡事業です。売上高は5,866億円、円ベースで6%、為替影響調整後で1%のプラス成長でした。その他の収益および費用を除外した調整後営業利益は1,331億円、調整後営業利益率は22.7%でした。
- 各分野の通期の事業概況についてお話しします。
- 消化器内視鏡では、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を発売した北米が好調に推移しました。
- 一方、反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響を受けた中国で売上が減少したことに加え、能登半島地震の影響を受け減収となりました。
- 外科内視鏡では、外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」を発売した欧州やアジア・オセアニアの売上が増加した一方、一部製品の出荷停止による影響を受けた北米と中国で減収となりました。
- 医療サービスでは、保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上加えて、新規契約の増加などもあり、全地域でプラス成長となりました。

2024年3月期 通期実績 治療機器事業



(単位: 億円)	FY2023		FY2024	
	4Q	通期	4Q	通期
売上高	843	3,182	901	3,373
営業損益	156	637	77	▲85
その他の収益および費用	▲18	▲6	▲70	▲655
調整後営業利益	173	643	147	570
営業利益率 (為替影響調整後)	18.5%	20.0%	8.6% (9.2%)	-
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	20.6%	20.2%	16.3% (16.5%)	16.9% (16.9%)

FY2024 vs FY2023 (4-3月) 売上高成長率

為替影響調整後

円ベース為替込み

■ 消化器科処置具	6%	■ 北米や中国を中心にプラス成長。肝胆膵疾患（内視鏡的逆行性胆道膵管造影術(ERCP)製品など）、大腸がんの治療（内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)/内視鏡的粘膜切除術(EMR)製品など）の領域で成長。北米は為替影響調整後で、通期は+14%、4Qは+11%成長	12%
■ 泌尿器科	▲1%	■ 欧州やアジア・オセアニアはプラス成長の一方、一部製品の出荷停止などを受けて北米などで減収。また、前立腺肥大症(BPH)用の切除用電極は好調に推移	6%
■ 呼吸器科	▲3%	■ 北米や欧州でプラス成長するも、一部製品の供給不足や反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響があった中国で減収	3%
■ その他の治療領域	▲5%	■ Gyrus Medical社の売却などに伴い売上が減少	1%
合計	0%		6%

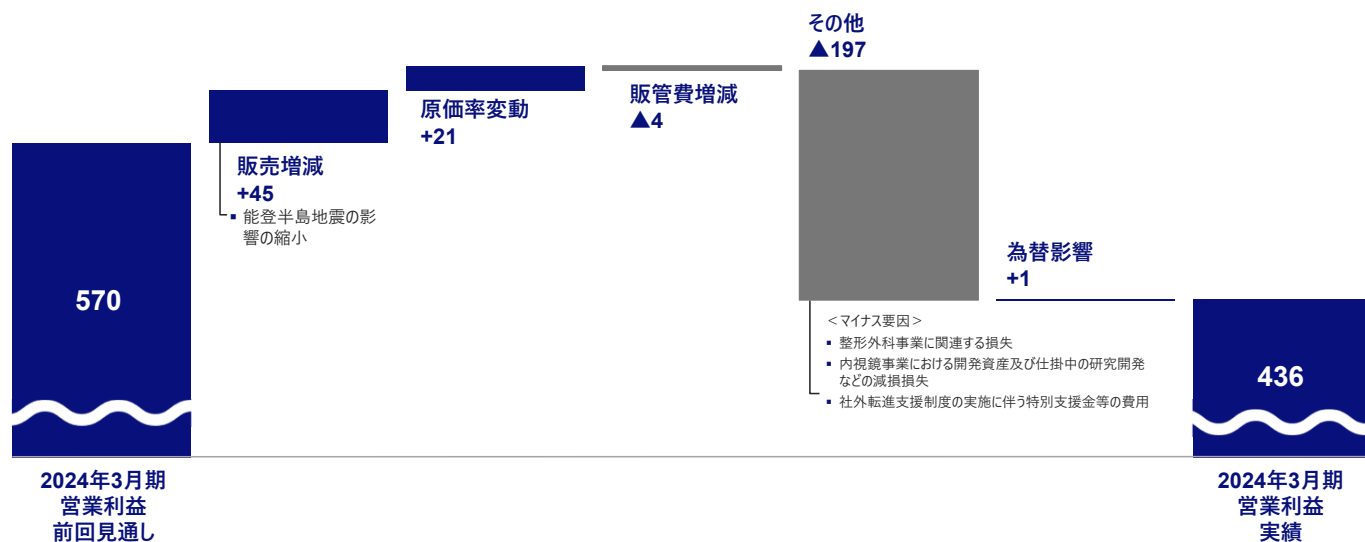
¹ 四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

(スライド19)

- 治療機器事業です。売上高は3,373億円、円ベースで6%のプラス成長、為替影響調整後で前年並みとなりました。その他の収益および費用を除外した調整後営業利益は570億円、調整後営業利益率は16.9%でした。
- 各分野の通期の事業概況についてお話しします。
- 消化器科処置具では、北米、中国を中心にプラス成長となりました。肝胆膵疾患及び大腸がんの治療の領域で成長しました。
- 泌尿器科では、欧州やアジア・オセアニアではプラス成長の一方、一部製品の出荷停止などを受けて減収となりました。また、前立腺肥大症用の切除用電極は好調に推移しました。
- 呼吸器科では、北米や欧州でプラス成長となりましたが、一部製品の供給不足や反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響があった中国で減収となりました。
- その他の治療領域では、Gyrus Medical社の売却などに伴い売上が減少しました。

2024年3月期 通期実績 連結営業利益増減要因（前回見通し比）

2024年3月期通期実績 2月14日公表見通し比



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

(スライド20)

- こちらのスライドでは、2024年3月期第3四半期決算公表時に提示した見通しに対する営業利益実績の増減要因をお示ししています。
- 能登半島地震の影響は想定より縮小しましたが、その他の費用で、整形外科事業に関連する損失、内視鏡事業における開発資産及び仕掛中の研究開発の減損損失などを追加で計上しました。整形外科事業の資産、内視鏡事業における開発資産及び仕掛中の研究開発ともに、市場環境の変化等の影響により、想定していた収益が見込めなくなったことから回収可能価額まで減額したことが要因です。
- これらは第3四半期決算を公表した2月14日時点では想定できなかった費用ではありますが、計数管理の精度を上げるべく、改善を図っていく必要があると思っています。

連結財政状態計算書

- 1 エビデントの株式譲渡による現金及び現金同等物の増加と為替影響（約1,080億円）の一方、Veran Medical Technologies社の減損による関連資産の減少および自社株取得（約1,800億円）などによる現金の支出により総資産は微増
- 2 Veran Medical Technologies社の減損を主因にのれん・無形資産が減少
- 3 エビデントの株式譲渡完了に伴い、売却目的で保有する資産および、それに直接関連する負債の額が変動

(単位：億円)	2023年3月末 ¹	2024年3月末	増減額		2023年3月末 ¹	2024年3月末	増減額
流動資産	7,264	8,003	+740	流動負債	4,619	4,317	▲302
棚卸資産	1,630	1,900	+270	社債および借入金	500	700	+200
売却目的で保有する資産	1,696	1	3 ▲1,696	売却目的で保有する資産に直接関連する負債	433	-	3 ▲433
非流動資産	7,823	7,339	▲485	非流動負債	4,056	3,453	▲602
有形固定資産	2,387	2,600	+212	社債および借入金	2,901	2,296	▲605
無形資産	1,168	920	2 ▲248	資本	6,412	7,572	+1,160
のれん	1,813	1,803	2 ▲10	自己資本比率	42.4%	49.4%	+7.0pt
資産合計	15,087	15,342	1 +255	負債および資本合計	15,087	15,342	+255

¹ 第3四半期連結累計期間において、2022年12月に買収したOdin Medical Ltd.の取得資産と引受負債の公正価値を修正したことにより、2023年3月末の連結財政状態計算書を遡及修正しています

(スライド21)

- 2024年3月末の財政状態です。
- バランスシートは255億円の増加となりました。
- エビデントの株式譲渡による現金及び現金同等物の増加に加え、為替影響約1,080億円がありましたが、Veran Medical Technologies社の減損による関連資産の減少および自社株取得などによる現金の支出により総資産は微増となりました。
- また、Veran Medical Technologies社の減損を主因にのれん・無形資産が減少しています。
- エビデントの株式譲渡完了に伴い、「売却目的で保有する資産」は1,696億円減少し、「売却目的で保有する資産に直接関連する負債」は433億円減少しました。
- 自己資本比率は前期末比で7.0ポイント増加し、49.4%となりました。

連結キャッシュフロー計算書

- 1 FCF： エビデント譲渡益などに係る法人税の支払を主要因に営業CFが減少したものの、エビデントの株式譲渡対価の受領などにより、FCFは大幅増。特殊要因を考慮した調整後FCFは709億円のプラス
- 2 財務CF： 自己株式の取得（約1,800億円）や長期借入金の返済、配当金支払を主要因に、2,760億円のマイナス

通期実績（4-3月）

(単位：億円)		FY2023	FY2024	増減	
継続事業	非継続事業	税引前利益	1,823	359	▲1,464
		営業キャッシュフロー（営業CF）	985	424	▲561
		投資キャッシュフロー（投資CF）	▲584	3,600	+4,184
		フリーキャッシュフロー（FCF）	401	4,024	1 +3,623
		調整後フリーキャッシュフロー（調整後FCF）	853	709	1 ▲143
		財務キャッシュフロー（財務CF）	▲1,432	▲2,760	2 ▲1,328
		現金および現金同等物期末残高	2,055	3,409	+1,354

2023年3月期の主な特殊要因

営業CF：科学事業の分社化に伴う税金支出・投資など	▲424億円
営業CF：海外子会社における年金資産の追加拠出	▲122億円
投資CF：固定資産（土地）の売却による収入など	+191億円
投資CF：投資有価証券、事業・子会社の取得など	▲76億円
投資CF：科学事業の分社化に伴う一時的な資金負担など	▲21億円

2024年3月期の主な特殊要因

営業CF：エビデント株式譲渡益に伴う法人税の支払	▲873億円
投資CF：エビデント株式譲渡対価などの受領	+3,852億円
投資CF：エビデントに対する貸付金の回収	+520億円
投資CF：Taewoong Medical社の買収対価および買収解除に伴う買収対価の払い戻し	▲125億円

(スライド22)

- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、424億円のプラスとなりました。前期比ではエビデント譲渡益などに係る法人税の支払を主要因に減少となりました。
- 投資キャッシュフローは、3,600億円のプラスとなりました。エビデントの株式譲渡対価などの受領や、エビデントに対する貸付金の回収などにより増加しています。
- フリーキャッシュフローは、4,024億円のプラスです。事業取得、譲渡、再編など特殊要因を考慮した調整後のフリーキャッシュフローは709億円のプラスとなりました。
- なお、Veran Medical Technologies社の電磁ナビゲーションシステムなどの製造・販売終了に伴う損失は、のれん、無形資産の減損が主要因のためキャッシュフローへの影響は軽微となります。
- 財務キャッシュフローは、2,760億円のマイナスとなりました。自己株式の取得や長期借入金の返済、配当金の支払いを行ったことが主要因です。
- 結果、2024年3月末の現金および現金同等物残は1,354億円増の3,409億円となりました。



02

2025年3月期 通期業績見通し

(スライド23)

- 次に、2025年3月期の通期業績見通しについてご説明申し上げます。

通期業績見通し ①連結業績

☑ 成長軌道に回帰し、売上高は円ベースで9%成長、為替影響調整後で5%成長。増収および一時費用の減少により、大幅な営業増益となる見通し。調整後営業利益率は19.4%と、経営戦略の財務ガイダンスである20%に近い水準を見込む

1 売上高：	1兆210億円と9%成長。為替影響調整後で5%増を見込む
2 営業利益：	1,770億円と大幅増を見込む。為替影響調整後も大幅増益
3 調整後営業利益：	1,985億円と31%成長。為替影響調整後で22%増を見込む。調整後営業利益率は19.4%となる見通し
4 当期利益 ¹ ：	エビデントの譲渡益が減少し、1,210億円、EPSは106円となる見通し
5 株主還元：	年間配当は2円増の20円を予定。2期連続で1,000億円規模の自己株式の取得を決定

(単位：億)	2024年3月期 通期実績	2025年3月期 通期見通し	増減	前期比	為替影響調整後
売上高	9,362	10,210	+848	+9%	+5%
売上総利益 (売上総利益率)	6,251 (66.8%)	6,990 (68.5%)	+739 (+1.7%)	+12%	+7%
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,732 (50.5%)	5,010 (49.1%)	+278 (▲1.5%)	+6%	+3%
その他の収益および費用など	▲1,083	▲210	-	-	-
営業利益 (営業利益率)	436 (4.7%)	1,770 (17.3%)	+1,334 (+12.7%)	+306%	+276%
調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,515 (16.2%)	1,985 (19.4%)	+470 (+3.3%)	+31%	+22%
税引前利益 (税引前利益率)	359 (3.8%)	1,710 (16.7%)			
当期利益	270 (2.9%)	1,210 (11.9%)			
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	2,426 (25.9%)	1,210 (11.9%)			
EPS	200円	106円			

¹ 親会社の所有者に帰属する当期利益

2025年3月期配当

5 年間配当20円を予定

(スライド24)

- 2025年3月期の通期業績見通しです。
- 先ほどカウフマンCEOが説明した通り、2025年3月期は成長軌道に回帰する年と位置付けており、売上高は前期比9%、為替影響調整後で5%の成長を見込んでいます。
- また、将来懸念を払拭する処理を前年度に終えたことで、前期決算に大きな影響を与えた一時費用が減少し、為替の追い風による押し上げ効果もあり、大幅な営業増益を見込んでいます。また同様に、為替影響調整後も大幅増益となる見通しです。
- なお、調整後営業利益率は19.4%と、経営戦略でお示した財務ガイダンスである20%に近い水準になる見通しです。

通期業績見通し ②セグメント別業績

- 1** 内視鏡事業： 米国・中国で発売した消化器内視鏡システム「EVIS X1」の拡販や、能登半島地震の発生に伴うバックオーダーの解消が進むことによる売上成長を見込む。増収および一時費用の減少により、大幅な営業増益となる見通し
- 2** 治療機器事業： 消化器科、泌尿器科、呼吸器科を中心とした売上成長に加え、一時費用の減少により、大幅な営業増益を見込む

(単位：億円)		2024年3月期通期実績	2025年3月期 通期見通し	増減	前期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	5,866	1 6,450	+584	+10%	+6%
	営業利益	1,047	1,620	+573	+55%	+44%
治療機器	売上高	3,373	2 3,630	+257	+8%	+4%
	営業利益	▲85	545	+630	-	-
その他	売上高	123	130	+7	+6%	+4%
	営業利益	▲78	10	+88	-	-
全社・消去	営業損益	▲448	▲405	+43	-	-
連結合計	売上高	9,362	10,210	+848	+9%	+5%
	営業利益	436	1,770	+1,334	+306%	+276%

(スライド25)

- セグメント別の業績見通しです。
- 内視鏡事業では、2024年3月期に米国・中国で発売した消化器内視鏡システム「EVIS X1」の拡販や、能登半島地震の発生に伴うバックオーダーの解消が進むことによる売上成長を見込んでいます。
- 治療機器事業では、注力している消化器科、泌尿器科、呼吸器科を中心とした売上成長を、それぞれ見込んでおります。
- 2024年3月期にその他の費用として計上した一時費用が減少することも相まって、両事業ともに大幅な営業増益を見込んでいます。



キャピタルアロケーション

(スライド26)

- 最後にキャピタルアロケーションについてお話いたします。

キャピタルアロケーション

- ✓ 成長ドライバーへの優先的な投資
- ✓ 安定的かつ段階的な増配
- ✓ 機動的な自己株式の取得



(スライド27)

- キャピタルアロケーションですが、従来の方針に変更はありません。
- 収益性の高い既存事業及び成長機会への戦略的な投資をアロケーション先の最優先とし、株主還元は、安定的かつ段階的な増配を基本とします。その上で運転資金および将来投資のための十分な手元流動性を確保して尚余剰資金がある場合には、自己株式の取得を検討してまいります。

株主還元

- ✓ キャピタルアロケーションの方針に基づき、運転資金および投資のための十分な手元流動性を確保した上で、2期連続で1,000億円規模の自己株式の取得を決定
- ✓ 2025年3月期の配当は7期連続の増配となる2円増の20円を予定

自己株式の取得状況

FY2024

1,800 億円

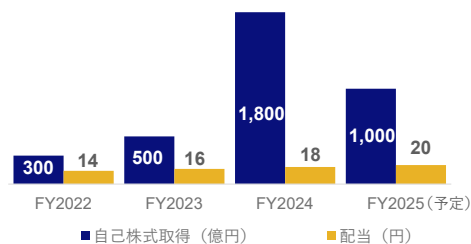
- ✓ 2023年5月15日～2023年11月6日
取得した株式の総数：51,032,000 株
発行済株式総数に対する割合：4.03%¹
- ✓ 2023年11月10日～2024年3月22日
取得した株式の総数：37,446,500 株
発行済株式総数に対する割合：3.08%¹

FY2025

NEW **1,000** 億円

- ✓ 取得しうる株式の総数
60,000,000 株（上限）
：発行済株式総数（自己株式を除く）
に対する割合 5.15%¹
- ✓ 取得期間
2024年5月13日～2024年12月31日

株主還元の推移



¹ 発行済株式総数に対する割合は、取締役会決議時の数値になります

(スライド28)

- 本日公表した通り、自己株式1,000億円の取得を決定しました。
- キャピタルアロケーションの方針に基づき、運転資金および将来投資のための十分な手元流動性を確保した上で、2期連続で1,000億円規模の自己株式の取得となります。
- なお、年間の配当予想は20円を見込んでおります。
- 今後も株主価値を高めるような事業投資を最優先としたうえで、株主の皆様への安定した利益還元を必達とする、資本の配分を行ってまいります。
- 私からの説明は以上です。ありがとうございました。

OLYMPUS

参考資料

開示の変更点

2024年3月期第1四半期に科学事業（エビデント）の譲渡を完了したことに伴い、
2023年3月期第2四半期より2024年3月期までは科学事業を非継続事業として開示（国際会計基準）

2022年3月期



2022年4月～2024年3月

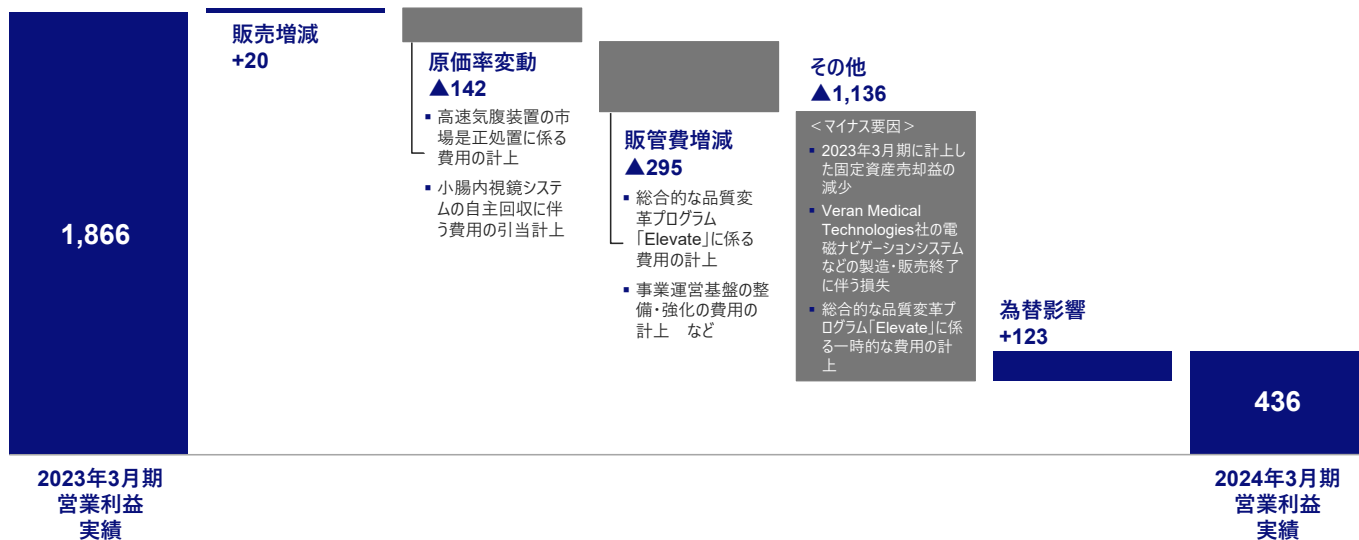


- 連結業績では、非継続事業からの当期利益（損失）を開示
- 参考資料として、非継続事業（科学事業）の業績を開示

¹ 2023年3月期第2四半期連結会計期間において、当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社である株式会社BCJ-66との間で科学事業の譲渡に関する株式譲渡契約を締結しました。売上高、営業利益、税引前利益、継続事業からの四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。なお、2023年4月に全株式の譲渡を完了しています

2024年3月期 通期実績 連結営業利益増減要因

通期実績（4-3月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

2024年3月期 通期実績 連結業績概況（前回見通し比）

(単位：億円)		2024年3月期 2月公表見通し	2024年3月期 通期実績	増減	2月公表見通し比	為替影響調整後	
1 継続事業	売上高	9,240	9,362	+122	+1%	+1%	
	売上総利益 (売上総利益率)	6,150 (66.6%)	6,251 (66.8%)	+101 (+0.2%)	+2%	+1%	
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理费率)	4,700 (50.9%)	4,732 (50.5%)	+32 (▲0.3%)	+1%	0%	
	その他の収益および費用など	▲880	▲1,083	-	-	-	
	営業利益 (営業利益率)	570 (6.2%)	436 (4.7%)	▲134 (▲1.5%)	▲24%	▲24%	
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,450 (15.7%)	1,515 (16.2%)	+65 (+0.5%)	+5%	+4%	
	税引前利益 (税引前利益率)	510 (5.5%)	359 (3.8%)				
	継続事業からの当期利益	240 (2.6%)	270 (2.9%)				
	2 非継続事業	非継続事業からの当期利益	2,280	2,160			
		当期利益	2,520	2,429			
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)		2,520 (27.3%)	2,426 (25.9%)				
EPS		208円	200円				

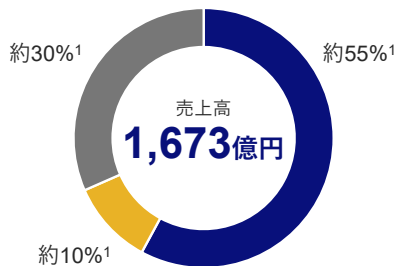
¹ 「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載

² 2023年4月に非継続事業（エビダント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

2024年3月期 セグメント別概況

通期実績 (4-3月)					第4四半期実績 (1-3月)				
(単位: 億円)	2023年3月期	2024年3月期	前期比	為替影響調整後	2023年3月期	2024年3月期	前期比	為替影響調整後	
内視鏡	売上高	5,518	5,866	+6%	+1%	1,528	1,673	+9%	0%
	営業利益	1,528	1,047	▲31%	▲40%	421	211	▲50%	▲64%
治療機器	売上高	3,182	3,373	+6%	0%	843	901	+7%	▲3%
	営業損益	637	▲85	-	-	156	77	▲51%	▲51%
その他	売上高	119	123	+3%	▲2%	33	31	▲6%	▲12%
	営業損益	▲9	▲78	-	-	0	▲88	-	-
全社・消去	営業損益	▲289	▲448	-	-	▲136	▲155	-	-
連結合計	売上高	8,819	9,362	+6%	0%	2,404	2,605	+8%	▲1%
	営業利益	1,866	436	▲77%	▲83%	440	46	▲90%	▲102%
(参考) 非継 続事業	売上高	1,354	0	-	-	444	0	-	-
	営業損益	70	3,483	-	-	56	2	-	-

2024年3月期 第4四半期実績 内視鏡事業



(単位: 億円)	FY2023 4Q	FY2024 4Q
売上高	1,528	1,673
営業利益	421	211
その他の収益および費用	▲15	▲165
調整後営業利益	436	376
営業利益率 (為替影響調整後)	27.5%	12.6% (9.9%)
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	28.5%	22.5% (20.3%)

FY2024 vs FY2023 (1-3月) 売上高成長率

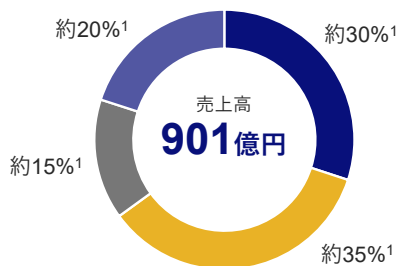
為替影響 調整後

円ベース 為替込み

	為替影響 調整後		円ベース 為替込み
■ 消化器内視鏡	0%	<ul style="list-style-type: none"> 消化器内視鏡システム「EVIS X1」の販売を開始した北米で為替影響調整後+20%の成長。一方、反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響を大きく受けた中国で売上が減少したことに加え、能登半島地震の影響を受け減収。「EVIS X1」シリーズの売上割合は、消化器内視鏡の中で約30%に上昇 	9%
■ 外科内視鏡	▲16%	<ul style="list-style-type: none"> 反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響を大きく受けた中国などで減収 	▲10%
■ 医療サービス	10%	<ul style="list-style-type: none"> 保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加もあり、全地域でプラス成長 	21%
合計	0%		9%

¹ 四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

2024年3月期 第4四半期実績 治療機器事業



(単位: 億円)	FY2023 4Q	FY2024 4Q
売上高	843	901
営業損益	156	77
その他の収益および費用	▲18	▲70
調整後営業利益	173	147
営業利益率 (為替影響調整後)	18.5%	8.6% (9.2%)
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	20.6%	16.3% (16.5%)

FY2024 vs FY2023 (1-3月) 売上高成長率

為替影響調整後

円ベース為替込み

■ 消化器科処置具	5%	■ 北米、中国を中心にプラス成長。大腸がんの治療（内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)/内視鏡的粘膜切除術(EMR)製品など）や肝胆膵疾患（内視鏡的逆行性胆道膵管造影術(ERCP)製品など）、大腸がんの検出（ENDOCUFF VISION**など）の領域で成長	14%
■ 泌尿器科	2%	■ 反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響を受けた中国で減収の一方、前立腺肥大症(BPH)で主に使用される切除用電極の販売が拡大した欧州を中心に増収	13%
■ 呼吸器科	▲5%	■ 超音波気管支鏡ガイド下針生検(EBUS-TBNA)で主に使用される処置具などが好調に推移した欧米で増収となるも、一部製品の供給不足や反腐敗運動による入札活動の遅れなどの影響を受けた中国で減収	5%
■ その他の治療領域	▲16%	■ 一部製品の出荷停止や、日本での他社製品の取り扱い終了の影響を受けたエネルギーデバイスを中心に減収	▲8%
合計	▲3%		7%

¹ 四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります **医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

2024年3月期 サブセグメント別売上高成長率

	1Q		2Q		3Q		4Q	
	円ベース	為替影響調整後	円ベース	為替影響調整後	円ベース	為替影響調整後	円ベース	為替影響調整後
消化器内視鏡	3%	0%	▲5%	▲8%	1%	▲3%	9%	0%
外科内視鏡	24%	19%	▲2%	▲5%	6%	1%	▲10%	▲16%
医療サービス	13%	8%	14%	8%	14%	8%	21%	10%
内視鏡事業合計	9%	5%	1%	▲3%	6%	1%	9%	0%
消化器科（処置具）	9%	5%	11%	6%	14%	9%	14%	5%
泌尿器科	8%	2%	1%	▲4%	3%	▲2%	13%	2%
呼吸器科	2%	▲2%	2%	▲2%	2%	▲3%	5%	▲5%
その他の治療領域	5%	1%	▲5%	▲9%	12%	7%	▲8%	▲16%
治療機器事業合計	7%	2%	2%	▲2%	8%	3%	7%	▲3%

プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2024年5月10日時点)



2025年3月期の内視鏡事業における重点施策

- グローバルにおいて、消化器内視鏡システム「EVIS X1」の更なる拡販に注力
- キヤノンメディカルシステムズとの協業により、次世代超音波内視鏡システムを市場に提供。欧州、日本、アジア・オセアニアを皮切りにグローバル展開を見込む
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化
- 外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」の米国（2025年3月期末）及び中国（2026年3月期）での導入を目指し、市場競争力の向上を図る
- インテリジェント内視鏡医療エコシステムのコンセプト及び一部関連製品を欧州で展開予定

2025年3月期
売上高成長率（見通し）

10%

円ベース

6%

為替影響調整後

現在の主力製品	直近の新製品 / 発売予定の製品	中長期のパイプライン
消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> EVIS X1 EVIS EXERA III (米国、欧州) EVIS LUCERA ELITE (中国) EU-ME3 (欧州、日本、アジア・オセアニア) 	消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> 超音波画像診断装置Aplio i800 EUS (欧州、日本、アジア・オセアニア) EU-ME3 (米国) 	消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> シングルコース十二指腸内視鏡 EU-ME3 (中国)
外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (米国、中国) VISERA 4K UHD (米国、中国) VISERA ELITE III (欧州、日本、アジア・オセアニア) 	外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> VISERA ELITE III (米国) 	外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> VISERA ELITE III (中国)
	FOCUS AREA インテリジェント内視鏡医療エコシステム ¹ を初めて導入 (欧州)	FOCUS AREA インテリジェント内視鏡医療エコシステム ¹

¹ 開示上、インテリジェント内視鏡医療エコシステムの業績は外科内視鏡に分類されます
 *注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2024年5月10日時点)



2025年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイスなど主要カテゴリにおいて、臨牀的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 肺がん分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力
- 「EVIS X1」プラットフォームの導入促進を継続し、気管支鏡の強みを強化

2025年3月期
売上高成長率 (見通し)

8%

円ベース

4%

為替影響調整後

現在の主力製品

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- レゼクト電極
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州、アジア・オセアニア)

呼吸器科

- シングルコース気管支鏡 (米国)
- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム
- EVIS X1 気管支鏡 (日本、欧州、アジア・オセアニア)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科

- 3製品 (米国)
- 3製品 (欧州)
- 1製品 (日本)
- 2製品 (中国)

泌尿器科

- ESG-410 (米国、日本、アジア・オセアニア)
- シングルコース尿管鏡 (米国、アジア・オセアニア、日本)
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System (日本)
- iTind (米国、欧州、アジア・オセアニア)
- レゼクト電極 (中国)
- 硬性尿管鏡 (中国)

呼吸器科

- 新超音波気管支鏡 (米国、中国)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)
- 超音波プロセッサ (欧州、日本、アジア・オセアニア)

中長期のパイプライン

消化器科

- シングルコース胆道鏡

泌尿器科

- 膀胱鏡
- カメラヘッド
- ビデオプロセッサ

呼吸器科

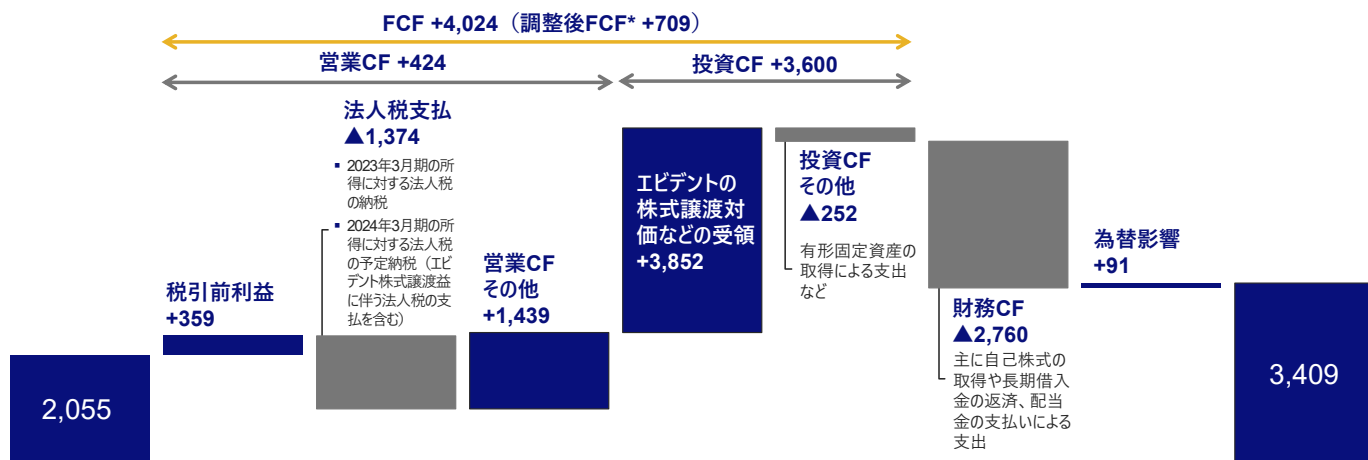
- 細径超音波気管支鏡
- EVIS X1 気管支鏡 (中国)

*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

2024年3月期 その他の収益および費用

前期比				前年同期比			
(単位：億円)	FY2023	FY2024	増減	(単位：億円)	FY2023 4Q	FY2024 4Q	増減
その他の収益	237	47 ▲190		その他の収益	18	13 ▲5	
主な収益科目	<ul style="list-style-type: none"> 土地売却益 164 (全社・消去) Medi-Tate条件付対価戻入 14 (治療機器) Veran Medical Technologies社関連損失 11 (その他) 			主な収益科目			
その他の費用	139	1,126 +987		その他の費用	64	381 +317	
主な費用科目	<ul style="list-style-type: none"> Transform Olympus等費用 24 (内視鏡、治療機器、全社・消去) 品質関連費用 19 (内視鏡、治療機器、全社・消去) 開発資産減損損失 18 (内視鏡、治療機器) Veran Medical Technologies社関連損失 519 (治療機器) 総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る一時的な費用 230 (内視鏡、治療機器) 開発資産などの減損損失 129 (内視鏡、治療機器) 整形外科事業に関する損失 86 (その他) 社外転進支援費用 59 (内視鏡、治療機器、全社・消去) Taewoong Medical社関連費用 20 (治療機器) 			主な費用科目	<ul style="list-style-type: none"> 品質関連費用 16 (内視鏡、治療機器、全社・消去) 開発資産などの減損損失 115 (内視鏡、治療機器) 整形外科事業に関する損失 86 (その他) 総合的な品質変革プログラム「Elevate」に係る一時的な費用 60 (内視鏡、治療機器) 社外転進支援費用 38 (内視鏡、全社・消去) Taewoong Medical社関連費用 20 (治療機器) Veran Medical Technologies社関連損失 10 (治療機器) 		

2024年3月期 連結キャッシュフロー主要項目



2023年3月末
現金および現金
同等物期末残高

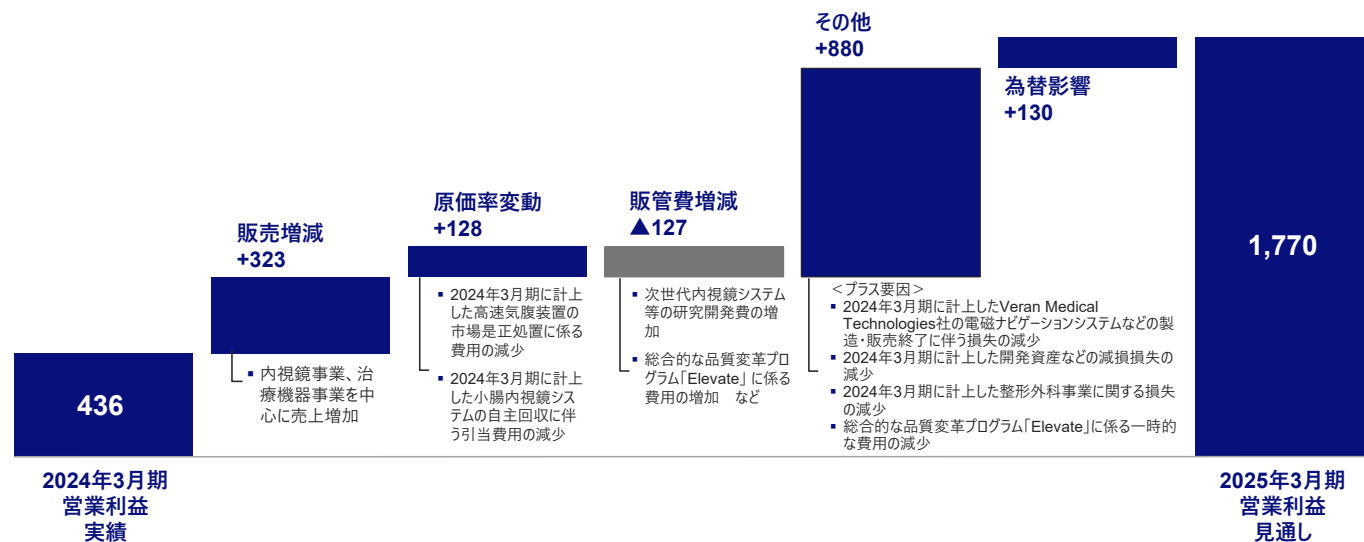
2024年3月期の主な特殊要因

営業CF：エビデント株式譲渡益に伴う法人税の支払	▲873億円
投資CF：エビデント株式譲渡対価などの受領	+3,852億円
投資CF：エビデントに対する貸付金の回収	+520億円
投資CF：Taewoong Medical社の買収対価および買収解除に伴う買収対価の払い戻し	▲125億円

2024年3月末
現金および現金
同等物期末残高

2025年3月期 通期見通し 連結営業利益増減要因

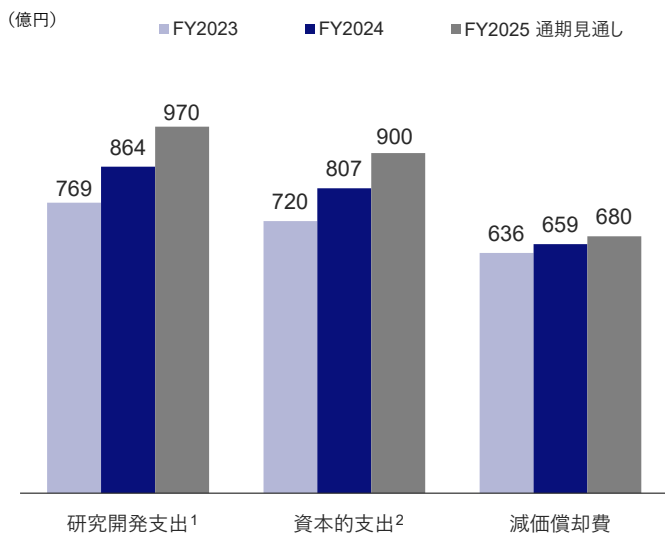
2025年3月期通期見通し 2024年3月期通期実績比



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

投資実績推移および2025年3月期 通期見通し

通期実績（4-3月）および通期見通し



(単位：億円)

	FY2023	FY2024
研究開発支出 ¹ (a)	769	864
開発費資産化 (b)	126	156
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	643	708

(単位：億円)

	FY2023	FY2024
償却費	84	83
	2023年12月末	2024年3月末
開発資産残高	626	606

¹ 研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています
² 資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。(FY2023通期：105億円、FY2024通期：148億円、FY2025通期見通し：140億円)

為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1ヵ月間の平均値を原則としている

為替

(単位：円)	FY2023 1Q	FY2023 2Q	FY2023 3Q	FY2023 4Q	FY2024 1Q	FY2024 2Q	FY2024 3Q	FY2024 4Q	FY2025 見通し
円／ドル	129.57	138.37	141.59	132.34	137.37	144.62	147.89	148.61	151
円／ユーロ	138.12	139.34	144.30	142.10	149.47	157.30	159.11	161.31	163
円／人民元	19.58	20.19	19.87	19.34	19.56	19.94	20.44	20.63	21

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	26	5
ユーロ（1円あたり）	16	5
人民元（1円あたり）	52	27

*為替感応度（年間）はFY2024Q4実績より算出しています

略語集

略語	英語	日本語
ADR	Adenoma Detection Rate	大腸腺腫検出率
BPH	Benign Prostatic Hyperplasia	前立腺肥大症
CRC	Colorectal Cancer	大腸がん
EBUS-TBNA	Endobronchial Ultrasound-guided Transbronchial Fine Needle Aspiration	超音波気管支鏡ガイド下針生検
EMR	Endoscopic Mucosal Resection	内視鏡的粘膜切除術
ERCP	Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography	内視鏡的逆行性胆道膵管造影術
ESD	Endoscopic Submucosal Dissection	内視鏡的粘膜下層剥離術